

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0171500671		
法人名	医療法人社団森生会		
事業所名	グループホーム「もりの家」		
所在地	〒049-2311 北海道茅部郡森町字上台町330-85 (電話) 01374-3-2525		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	32,000~35,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.2 歳	最低 46 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森の里病院、岩島歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、母体法人である医療機関と隣接しており、健康管理面が充実し、医療的サポートを受けられる体制である。ケースワーカーでもある管理者は、高校の福祉科で認知症についての講師をするとともに、事業所では実習生の受け入れをしている。また、当事業所内でも管理者自ら講師となり、研修会を実施して、職員の資質の向上に積極的に取り組んでいる。職員は、利用者の笑顔とその人らしさを大切にしながら、一人ひとりの尊厳を守るような支援をしており、利用者は家庭的環境の中でゆったりと生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である服薬支援、応急時の手当てについては、母体法人の医療機関から看護師の有資格者が当事業所に着任し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を全職員に配布して、それぞれ記入したものを一本化しながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月毎に運営推進会議を実施している。しかし、評価結果の公表を議題として取り上げ、議事録に記録するまでには至っていない。今後は、会議の中で自己評価、外部評価の結果についても議題とし、記録も整備して、双方向的な会議になるよう取り組むことが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	現在のところ家族からの苦情等はないが、管理者は、家族の来訪時には気軽に声をかけをしたり、事務所で雑談をしながら、意見や苦情を聞き取るような配慮をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	母体法人の医療機関と合同で行事を開催しており、夏まつりには町内会員が大勢参加している。また、小学生の事業所訪問もあり、小学生からの利用者へのメッセージをホールに掲示するなど、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で「その人らしさ」と、「笑顔を大切に」しながら、安心して暮らせるように、柔軟な支援をすることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティング時に理念について話し合うなど、全職員で共有するように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の来訪があり、小学生からの利用者へのメッセージをホールに掲示している。また、夏まつりには町内会員が大勢参加するなど、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価表を配布し、それぞれ記入したものを一本化して作成している。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。しかし、外部評価の結果等を議題として取り上げ、その結果の公表などについて検討するまでには至っていない。	○	今後は、自己評価、外部評価の結果も議題として取り上げて検討するとともに、会議の記録を整備し、双方向的な会議になるよう取り組むことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会、地域包括支援センターとは常に連携をとりながら、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の行事の案内や様子を、利用者の写真を添えて家族に報告している。また、職員の異動がある時も、知らせている。金銭管理については、母体法人の事務所が担当者を決めて行っており、月末に領収書を添えて家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置しているが、今のところ家族からの意見、苦情はない。管理者は、家族の来訪時に気軽に声かけをして、雑談をしながら意見や苦情を聞き取る配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員による支援の重要性をよく理解しており、職員の固定化のために福利厚生の充実に努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年3回、管理者が講師となり内部研修を実施している。また、事業所外で開催される研修会には、多くの職員が受講できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学や相互研修を通じて、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に安心感を与えるために、家族と相談しながら、事前に利用者に事業所へ遊びに来てもらうなどの工夫をし、事業所の雰囲気にならざるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の残存能力を見極めて見守りながら、笑顔で接している。また、物を大切にしている姿勢など、利用者から教えてもらうことが多く、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思い出話等に耳を傾けながら、一人ひとりの生活歴を汲み取るとともに、日々の関わりを通して、それぞれの言葉や表情から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの中で、利用者、家族の意見や思いを聴くとともに、職員が意見やアイデアを出し合いながら、センター方式で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月ごとにモニタリングを行いながら、3ヶ月ごとに見直しをしている。また、状態の変化が生じた時は、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、宿泊、かかりつけ理美容院への送迎支援など、利用者や家族の希望に応じた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診が可能であり、通院介助など適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	隣接する母体法人の医療機関と連携を図りながら、早期に家族と話し合っ、終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は、ロッカーに適切に保管している。また、職員は、利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような対応をしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは、職員と利用者が相談して決めている。また、利用者は、一人ひとりの状態や得意分野に合わせて、調理、盛り付け、後片付け等を、職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中は、利用者の希望に合わせて自由に入浴ができ、それぞれの利用者は週3回は入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの得意分野を把握しており、利用者それぞれの能力に応じて、洗濯物たたみ、花の手入れなどを行っている。床の掃除が自分の仕事と思っている利用者に、見守りながら感謝の言葉を伝えるなど、工夫しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日には、散歩、買い物、ドライブ等に出かけることが多い。また、冬期間は、散歩カードに記録をとり、事業所内で、工夫しながら機能訓練を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しており、日中は、玄関や居室に鍵をかけていないが、夜間は防犯上の理由から、玄関に施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、母体法人の医療機関と合同で、日中訓練、及び夜間想定訓練を実施している。また、町内会員の参加も得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取状況を、チェック表に記録しており、職員全員で情報を共有している。また、献立や栄養バランスについて、母体法人の栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、明るく清潔で、不快な音や臭い、光がないように配慮している。また、玄関フロアには季節感のある飾りを置き、行事の時の写真も多数飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者それぞれが自宅から日用品や思い出の写真などを持ち込んでおり、家族と相談しながら飾りつけをしており、居心地よい居室になるよう工夫している。		

※  は、重点項目。